

設置目的
次代を担う子どもたちが、里山の豊かな自然の中で「自ら遊び・学び・鍛える」直接的な体験学習を行い、この体験を通して自然を楽しむとともに、自然に対する理解を深め、また、人と人とのふれあいの大切さを知る。併せて、市民の余暇時間の増大に伴う野外レクリエーションの需要に対応した利用を促進する。(平成8年7月5日開所)
運営理念
日常ではない「環境」を生かし、「プログラム」を通じて、市民に「感動」と「気づき」、「充実感」を提供する「宮っこのホームマウンテン」づくりを目指します。
基本方針
<p>上記の設置目的や運営理念のもと、冒険活動運営協議会からのご意見をいただくとともに、関係機関、団体等との連携を図りながら施設を運営してきました。これまで家庭や地域の教育力の低下の要因とされ、子どもの体験機会創出に影響する、都市化、少子化や核家族化、共働き世帯の増加、ライフスタイルの多様化などの社会の変化は引き続いており、昨今のコロナ禍やAI、ICT等の急速な普及によるデジタル社会への転換に伴い、コミュニケーションの在り様が大きく変化しています。</p> <p>さらに、今後、人口減少、VUCAの時代といわれる先の見えない社会の到来という中で、新時代を生きる子どもたちが、自然体験活動を通して、五感を総動員させ、自然の癒しや厳しさを感じ、受け入れ、他者とともに困難にも向かう体験をし、知的好奇心や探求心、自己肯定感等、人間的な成長を促していくことが、これまで以上に求められています。</p> <p>このことから、本施設の特徴を最大限生かすとともに、ハード面・ソフト面をリフレッシュしながら、時宜を得た事業に取り組み、さらに魅力ある体験学習施設を目指します。</p> <p>(1) 学校受入事業…実施校に対し事前研修を充実するとともに、適切な支援体制のもと、安全かつ円滑な受入に努めます。</p> <p>(2) 一般受入事業…施設の安全・安心な利用に向けた環境整備を進めるとともに、予約管理にかかるDXを進めるなど、利用者の更なる利便性の向上及びおもてなしの充実を図ります。</p> <p>(3) 主 催 事 業…既存事業をより効果的効率的に実施するとともに、施設・地域の特徴を生かした活動や季節感のある活動を提供することにより里山での自然体験活動の魅力を感じていただける機会を充実します。</p> <p>(4) 自然体験活動に関わる人材育成事業 …「自然体験活動指導者(NEAL)」の養成や職場体験等の受入を通じて、職員の資質向上及び自然体験活動の普及に努めるとともに、市民と協働しながら事業運営を行います。</p> <p>(5) 広報・理解促進事業 …ホームページやSNS等及び他機関との連携を強化し、冒険活動センターの理解や利用を促進します。</p>

事業区分	事業の概要			
事業名	内容	対象	時期	回数
学校受入事業				
冒険活動教室	里山の自然のなかで、子どもたちが集団宿泊を通して、ゆとりある体験活動に主体的に取り組み、それにとまらぬ様々な困難を克服し感動や達成感を味わい、自ら問題を解決する能力を養うとともに、豊かな心をはぐくむことを目的とする。	市立小、中学校94校 ・小学校69校(5年生) ・中学校25校(1年生)	4月～3月	94回
調査研究	「宇都宮市の児童生徒及び保護者、教員の体験活動への関わりに関する実態調査」を踏まえ冒険活動教室を再評価し、本市における自然体験活動の基盤を整える。	市立小、中学校94校 1学級抽出 ・小学校1～3年生の保護者 ・小学校4～6年生の児童とその保護者 ・中学校2年生 ・教職員	通年	1回
冒険活動実技研修会	効果的な冒険活動教室を実施するため、各学校の指導者を対象に様々なアクティビティ(活動)の詳細な指導法等について実技研修を行う。	冒険活動教室実施小中学校の引率教員	4月	1回
冒険活動指導者研修会	冒険活動教室を円滑かつ効果的に実施するため、各学校の指導者を対象に施設の適切な利用方法や活動プログラムの指導法についての指導及び計画書の作成を行う。 ・小学校、中学校、地域学校園	冒険活動教室の計画作成者	通年	29回
一般受入事業				
公園・施設の安全管理	利用者が安全かつ快適に滞在できる環境を確保するため、公園施設及び設備について確実な点検を行うとともに、老朽化に対応していくための修繕等を適切に行う。 ・定期点検 ・法定点検 ・施設の大規模改修(継続)	センター施設・設備	通年	随時
サービス(おもてなし)の充実	利用者の利便性向上やニーズを捉えたサービスの充実に取り組み、満足度の向上や利用者数の増加を図る。 ・インターネット予約の導入検討 ・園内展示物の充実・管理	市民、利用者	通年	随時
レストランとの連携	レストラン事業者との円滑なコミュニケーションにより、利用者に対する安全安心な食事の提供及び利用者へのおもてなしの充実に努める。 ・定例会	レストラン事業者	通年	随時

主催事業(一般公募事業)				
家族ふれあいキャンプ (1泊2日)	冒険活動センター周辺の豊かな自然の中で、体験活動を通して、家族のふれあいを深めるとともに、野外活動の普及と定着を図る。	市在住または在勤で小中学生を含む家族 15組	5月	1回
冒険キャンプ (2泊3日)	冒険活動センター周辺の豊かな自然の中で行われる自然体験活動等に取り組むことにより、子どもたちが直接的な体験を通し、自然のすばらしさを知るとともに、課題や困難を乗り越える力を育む。	市内在住の小学5年生～ 中学3年生 35名	8月	1回
ちびっこキャンプ (日帰り・1泊2日)	冒険活動センター周辺の豊かな自然の中で、登山やネイチャーゲームなどの野外活動を楽しみながら、自然の中での基礎的な体験活動を通して、人との関わり方や自立心を養うことを目的とする。	市内在住の小学1・2年生 24名	8月(日帰り) 9月(1泊2日)	1回
家族ふれあいデイキャンプ (日帰り)	冒険活動センター周辺の豊かな自然の中で、体験活動を通して、家族のふれあいを深めるとともに、野外活動の普及と定着を図る。	市在住または在勤で小中学生を含む家族 15組	12月	1回
Bouken Day! (日帰り)	冒険活動センターで自然体験を提供することにより、野外活動のおもしろさについて理解促進を図る。	市民一般 各回10組	1月 2月, 3月	3回
自然体験活動に関わる人材育成事業				
NEALリーダー養成講習会 (職員研修)	活動支援にあたる職員に対し、基礎的な資質として、自然体験活動指導者資格(NEALリーダー)と同等の知識・技能を身に付けるための研修を実施する。	冒険活動センター職員	通年	随時
宇都宮大学「野外教育」 (3泊4日)	宇都宮大学の集中講義(教員の免許状取得のための選択授業)との連携により、教員志望者に対する自然体験活動の指導者の養成を図る。	宇都宮大学教育学部生 15名	8月	1回
冒険活動アクティビティ研修 (日帰り)	子どものもり公園やその周辺地域を利用し、様々な活動を体験することを通して、自然体験活動の意義や効果について理解を深めることで、教員のスキルアップに寄与する。	宇都宮市立小中学校の教職員	8月	1回
冒険活動センターボランティア事業	自然体験活動指導者取得者、学生等を幅広くボランティアとして受け入れることにより、主催事業等において安全で充実した活動を支援するとともに、施設運営の充実を図る。	・自然体験活動指導者取得者 ・学生	通年	随時
インターンシップ等の受入	①教員を目指す学生が、市内小中学生のサポートを行い、教育学部卒業生に求められる実践的指導力を育成する。(教育実践インターンシップ事業) ②就業体験を通して、働くことの尊さを実感させ、自己を見つめさせるとともに、他人を思いやる心や社会のためになることを積極的に行う態度を育成する。(宮っ子チャレンジウィーク) ③就業体験を通して、社会や職場の実情を知ることにより、職業観や就業意識の高い人材の育成に貢献する。	①宇都宮大学教育学部 3・4年生 ②宇都宮市立の中学2年生 ③大学生等	通年	随時
広報・理解促進事業				
子どものもりフェスティバル (日帰り)	施設を開放し、様々な活動や催しを通して、センターの施設や活動内容、協力団体の活動内容について理解促進を図るとともに広く市民の自然体験活動への取組を促進する。	市民一般	10月	1回
知ってもらおう運動(広報活動の充実)	主催事業やセンターの自然等の配信を積極的に行うことで、自然体験活動の普及及び施設利用を促進する。 ・広報うつのみやを活用した情報発信 ・親学と子どもの情報誌「こどもるっくる」(生涯学習課)を活用した情報発信 ・SNS、ホームページ等を活用した情報発信	市民一般	通年	随時
所報の発行	関係各所に対する定期的な情報発信により、施設の事業の周知や利用を促進する。	市民一般	3月	1回
他機関との連携	他機関との連携により、自然体験活動の普及及び施設・事業の周知や利用促進を図る。 ・篠井地区市民センター ・栃木県林業センター・林業大学校 ・親学出前講座(生涯学習課) ・U@りんくす(教育センター)	市民一般	通年	随時